

# 下大洞古墳群が 関市指定文化財に！



▲ 2号古墳の墳丘（西から）

▼ 2号古墳墳丘の土塊積み



2号古墳の横穴式石室▼



関市教育委員会では関市文化財保護条例に基づき、令和5年10月2日付けで、下大洞古墳群を史跡に指定しました。

下大洞古墳群は武儀川の右岸、武芸川町平にある2基の円墳からなる古墳群で、谷の北側のやや小高いところに2基並び、東側が1号古墳、西側（谷の奥側）が2号古墳です。1号古墳は墳丘の中央部分が窪み、古墳の周辺に大型石材が落ちていることから埋葬施設は横穴式石室であったと考えられます。2号古墳は以前から横穴式石室であることが知られていました。玄室はやや胴張りで、奥壁に大型石材を置く、全長9.1mの石室です。出土遺物などは確認できませんが、古墳時代後期の古墳です。

発掘調査の成果から、1号古墳は直径約12.5mの円墳、2号古墳は直径約16mの円墳であり、1・2号古墳共に墳丘の背面は地山（一部岩盤）を削って造られたことが分かりました。2号古墳についてはさらに、傾斜のある前庭部があり、形状は「八」の字状に開いていること、墳丘の南西側の地山が低い部分には土塊積みをおこなっていることが明らかとなりました。

下大洞古墳群は、1号古墳の残りはやや悪いものの、2号古墳は墳丘の残りがよく、特に土塊（どかい）積みを確認できたことは古墳時代の土木技術を知る上で重要です。

以上の調査成果から、下大洞古墳群は武芸川地域の有力者層の墓域であると考えられ、関市の古墳時代を考える上で重要な歴史遺産です。

## 【お問い合わせ先】

協働推進部文化課 文化財保護センター 森島

関市武芸川町八幡1446-1（武芸川事務所2階） ☎0575-45-0500（月～金・8:30～17:15）